

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 9 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100256		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂		
所在地	広島県広島市戸坂大上3丁目2-30 (電話) (082) 229-2822		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100256-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年8月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

人として当たり前の生活（食事は口から摂取、排泄はトイレで行う、お風呂は湯船に浸かる）を援助すると共にその人らしさの実現に向けて、私たちと同じ生活者として向き合い、その人が生活の主役、人生の主役になって頂ける様、生活の再建を目指し、支援しております。また、人間学、生理学にかなった「自立支援の介護」を目標とし、最期まで可能な限りその人らしく過ごして頂ける様、日々努めています。そして、ご利用者と共に町内行事に参加させて頂くことで、地域住民の方との交流を図り、地域に開かれた事業所作りにも力を入れています。母体がクリニックということもあり、日々の健康管理や急変時の対応も、医師・看護師と連携を密に行うことが可能なので、安心して生活して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

このホームでは今年度の目標として、「利用者が住みやすい場所を提供するように、職員が支援します」を掲げ、取り組んでいる。ここでは、利用者の今までの生活を掘り起こし、利用者それぞれが望む生活を追求し「幸せ作り計画書」を作成し、各人の「幸せ」を実現できるように取り組んでいる。また、職員は利用者がそれぞれ自分のペースでゆったりと過ごせるように見守っている。毎日の午前中は、利用者が一同に会し「遊びりテーション」が行なわれている。そこでは、「風船バレー」「パタパタゲーム」などのゲームを楽しみ、また、利用者が部屋に閉じこもらないで一緒に楽しく過ごすように配慮されている。このホームでは、母体法人と協力し看取りを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に基づき、行動指針となる「生活作り10ヵ条」を毎朝の朝礼時に復唱している。そして、その言葉の意味を全職員が理解し、実践する為、管理者やリーダーが中心となり、周知徹底に努めている。	法人理念とそれに基づく行動指針である「生活作り10ヵ条」を毎朝復唱し、職員会議では、管理者が理念について説明を行なっている。また、理念に基づいた「今年の事業計画」を作成し、それに付随した職員個人目標も立て、実践している。なお、年度末にはその評価も行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的にはホーム周辺の掃除や散歩の際、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域行事への参加や、自分達の主催する行事へ招待する等、積極的な交流を行っている。町内会にも加入し、地域の一員として交流を行っている。	職員と利用者は、毎朝ホーム周辺を清掃したり、月2回行われる老人会主催の「公園清掃」にも参加し地域住民と協力し地域の美化に貢献している。ホーム駐車場で開催される「そうめん流し」は、町内会・子供会などと連携し企画されているが、年々盛んになり、地域住民や子どもたちが交流する場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	専門的な認知症ケアについては常に向上心を持ち、地域の方から電話や訪問にて相談を受けた時は、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、ご利用者の生活状況報告や取り組んでいるケア実践等の報告を行い、また、参加者からも事業所に対する意見や提案を頂き、双方向のやりとりを行った結果をサービスに反映している。	運営推進会議は、同一法人のホームと合同で開催されている。会議には、家族や地域住民代表、地域包括支援センター職員、近隣の福祉施設職員が出席し、活発な意見交換が行なわれている。水害に対して意見交換を行い、地域住民との相互協力について検討している。	このホームでは、議事録が家族に公表されておらず、会議におけるホームの状況報告や意見交換の内容が家族に伝わっていないようである。今後は、議事録を家族に広く公開し、家族の意見も求め、より意義のある会となることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への定期参加を促している。運営推進会議の報告にて事業所の取組み、実践を伝えている。	運営推進会議に毎回、地域包括支援センター職員が参加し、意見交換を行なっている。また、政府が推進している「地域包括ケア」事業のモデル地区として、この地域が指定され、今後は地域包括支援センターを支援し、事業に協力していくことになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人内外の身体拘束に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置し、広く普及に努めている。	年に1回、身体拘束に関する研修を行ない、拘束をしないケアの重要性について周知徹底している。また、事業所内には、「身体拘束委員会」を設置し、「身体拘束」に関する研修の準備や職員にマニュアルを徹底させる活動を行い、職員全員で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	法人内外の虐待防止に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置、広く普及に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修に参加することで知識を深め、資料の回覧及び配布により、各職員が周知出来るよう努めている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書及び契約書を提示し、具体的に説明するよう努めている。ご利用者及びご家族等からの要望や疑問等については、可能な限り適切な対応に努めている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	年に2回家族会を開催。家族よりの意見を伺う機会を設けるとともに、普段より面会等で来られた場合に、意見等あれば都度対応している。	年に2回開かれる家族会では、ホームの状況報告を行い、家族の要望を聞き、意見交換を行なっている。また、ケアプラン更新時の面談や月1回のモニタリングの報告の際にも、家族の要望や意見を聞くようにしている。家族からの要望は管理者に報告され対応されている。	家族会には多くの家族が参加し、要望や意見に対する説明を行なっている。しかし、今のところ、欠席者には内容が報告されていないようである。今後は、欠席者の意見も事前に聞き、家族会議事録を送付して、ホームと利用者家族の意思疎通を円滑にして、家族の意見をホームの運営に活用して頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議及びリーダー会議といった定例会議を開催し、意見交換の機会を確保している。	月1回行われる職員会議、リーダー会議で、職員の意見を聞いている。また、ホームの運営に関しては、職員と話し合いながら詳細を検討し実行している。職員の要望で、ホームで使用する書式を書き易く変更・改善したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績考課表や職務チェックリストによる個々の職員の評価制度を設け、年に2回実施、昇給等に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	筆記・実技試験を実施（マイスター制度）各職員の介護知識及び技術の把握を行っている。また、定期的な内部研修及びOJTにより、介護技術の向上に努めている。外部研修については、研修補助費という制度を利用できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に定期的に出向き、情報交換等により連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には、ご本人とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に対する心情や意向を的確にお聴きするよう努めている。その際、担当者を定め、可能な限り同じ者が対応するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前より、ご利用者に関する要望や思いを丁寧に聞き取りすると共に、事業所のコンセプトを伝え、場合によっては、ご家族の協力を必要とすることがあることを理解して頂く。そして、密な情報交換により、ご家族に安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や電話にての相談時には、ご本人やご家族等に今必要な支援を把握し、ご本人に合ったサービス利用の提供を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的な介護ではなく、自立支援を念頭においた「共に行う」という意識の下、支援している。また、調理等の際に利用者より助言をいただく等「教えて頂く」という機会が沢山ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来所時には、気軽に情報交換ができるよう、普段から関係作りを大切にしている。また、個別の外出を計画し、家族にも協力して頂くことで、思い入れのある場所へ出向く等のプランを実行している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	随時面会を受け入れている。	利用者が培ってきた馴染みの場や人との関係継続は、ホームとしても重要視し支援している。馴染みの喫茶店、今まで利用していた店での買い物、お墓参りなど利用者からの要望については、随時対応し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性に配慮した席順にすることや、利用者同士での声の掛け合い、助け合いの関係作り（きっかけづくり）の為、職員が間を取り持つようにしている。また、可能な限り、毎日アクティビティを1F・2Fの利用者全員で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族が馴染みの利用者に会いに来られ、職員に近況報告して下さる等の交流あり。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを把握し、生活に反映できるよう努めている。意思疎通が困難な方には人生史を深く掘り下げることでご本人の意向に沿えるよう努めている。	利用者が辿ってきた生活状況を利用者・家族から聞き取り「生活史」を完成させ、利用者それぞれの「幸せ」を明確にして「幸せ作り計画書」を作成している。その後、「幸せ」を実現するために課題を整理し、ケアプランに盛り込み実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	1人ひとり「幸せ作り計画書」を作成し、その中で生活歴を深く掘り下げている。ご本人及びご家族からの聞き取りにより、生活リズムや嗜好に関すること等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックを行うと同時に身体・心身の様子を伺い、現状の把握に努めている。必要事項はケース記録に記録を記し、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>「幸せ作り計画書」を基にご本人、ご家族、職員でカンファレンスを行いケアプランを作成している。原則1ヶ月ごとにモニタリングを行い、ご家族の意見も反映しつつ職員間で見直しを検討している。また、体調の急激な変化等あった場合は、随時見直しを行っている。</p>	<p>このホームでは、利用者毎に担当者を決めている。担当者は、毎月モニタリングを行いケアプランの評価を行っている。その後、ケアプランの見直しの際には、プランの原案を作成し、事業所内カンファレンスで他の職員の意見を聞き修正し、家族カンファレンスを経て最終プランとしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケース記録に詳しく記録している。さらに気をつけたい点を申し送りノート、ケアノートに記入し全職員で情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医師・看護師と連携し、必要に応じて支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の医療・消防・警察との連携を図り、安全で快適に暮らしていけるよう努めている。また、近隣の福祉施設と協同にて催しを実施する等の試みを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医はご本人・ご家族の希望を第一に治療方針等を決定し、スムーズな受診が出来るようご家族と情報交換を随時行っている。</p>	<p>本人、家族の要望を聞き、かかりつけ医を決め、必要に応じて受診している。ホームの主治医は2週間に1回往診し、利用者の健康状態を把握している。利用者の体調不良時には、主治医に連絡し、適切な処置を行なっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>法人内の訪問看護の看護師が、週1回来所し状態観察を行っている。また、治療・ケアの助言・指導を必要に応じて受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>当事業所は医療法人好縁会グループの一員であり、退院時の医療機関との協働はしっかりと行えている。加えて近隣の入院応需の病院（JR病院）とも医療連携の書面を交わしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期ケアについては「看取りに関する指針」の記載内容に基づき、体制は整っている。（実際に看取りケアを経験している）</p>	<p>法人として、「看取り」を行なう方針である。利用者が重度化した際には、家族の要望があれば、主治医を交えて「看取りに関する指針」を説明している。同意が得られれば、母体医療法人からの協力を得て、看取りを行なっている。今までに数例の事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>年1回は消防署の方に依頼し、救急蘇生等の講習会を開催して頂き、職員が参加している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回の防災訓練を実施。地域防災については物品や非常食を準備している。地域防災協定を結ぶよう努力している。</p>	<p>防災訓練は、利用者も参加して年に2回行なわれる。1回は消防署の立会いの下に行なわれ、夜間を想定した訓練も、少なくとも年1回は行っている。災害の際の地域住民との協力体制の確立については、現在協議中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者の尊厳を傷つけないよう十分配慮している。ケースファイル等も施錠できる収納庫で管理している。	ホームでは、「言葉かけや利用者に対する接遇」についての強化月間を定め、「言葉かけ」についての具体例を明示し、職員会議でも話し合いを行い、接遇改善に取り組んでいる。不適切な言葉かけが見受けられたら、随時、管理者が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々にあった方法で説明し、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールにケアを合わせるのではなく、その日の利用者の状況や希望に合ったケアが出来るよう、柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者にはなじみの美容院に出掛けていただけるよう支援している。また、ご家族にご本人の好みの衣類を持っていただき、季節に合わせた洋服を着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立に出来るだけご利用者の希望を取り入れ、食事を楽しみの一つとして提供できるよう支援している。また、盛り付け・配膳・下膳・片付け等出来る範囲で一緒に行っている。	毎日の食事は、利用者の要望を聞いて献立を決め、調理するようにしている。食事の下準備や後片付けは、利用者と一緒にしている。「ひな祭り」など、季節を楽しんでもらえるような食事を提供するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取については，1日1500CCを目標とし，場面毎での提供を心掛けている。食事についても，個別の食事形態等に配慮し，必要に応じて栄養補助食品を使用している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを欠かさず行っている。訪問歯科の往診が必要な方はその都度、受診していただき、歯科医より指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレで気持ち良く排泄していただく為に，個別の排泄パターンを把握するよう努め、個々に合った排泄介助を行っている。</p>	<p>利用者各人の詳細な排泄パターンを把握し、利用者の表情の変化を観察することにより、出来るだけ紙オムツを使用しない取り組みを行なっている。紙おむつから布パンツに移行した事例が数例あり、家族に喜ばれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適切な水分摂取、適度な運動、食材への配慮を日々心掛け、自然排便できるよう留意している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>全て希望に添えているわけではないが、可能な限りご利用者の要望を聞くよう努めている。また、負担なく、気持ちよく入っていただけるよう、ハード面の整備とスキル確認を行っている。</p>	<p>利用者が重度化しても、肩まで浸かって入浴を楽しんでもらうように支援している。入浴に対する個人の要望をまとめた「入浴シート」を作成し支援している。利用者の中には、歌を歌いながら入浴を楽しまれる方もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>体調に応じていつでも休息できるよう配慮し、午眠については夜間の睡眠の妨げにならないよう注意している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬リストは、職員がいつでも確認できる場所にファイルしている。症状の変化等が見られた場合には、速やかに医師・看護師に連絡を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>洗濯・ゴミ捨て等を手伝っていただいている。可能な限り戸外に出ることを日課とし気分転換をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日々の散歩をその日の体調等を考慮して行っている。また、遠方へ出かける際には、ご家族をお誘いして協力を得ながら行っている。</p>	<p>利用者が出来るだけホームから外に出て散歩するように心がけ支援している。食事材料の調達、利用者の買い物などは、必要に応じて随時に個別に対応し、外出支援を行なっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的に当ホームでは個人のお金は預かっていないが、本人が望む購入物で希望に沿う物があれば、ご家族に相談した上で「個人立替」という形を取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取り次ぎや、手紙を書いていただくことを日常的に支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>室内に温度・湿度計を設置し管理を行い快適に過ごしていただける環境を作っている。リビング、玄関等には季節の花を飾り季節感を演出している。</p>	<p>利用者が暮らし易いように、室内の温度・湿度を適切に保つように配慮し、室内を清潔にするよう掃除に気を配っている。利用者に応じた椅子やテーブルの高さに調整し、常にしっかりと座るように配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用スペースには食卓用の椅子に加えて、ソファを置き、過ごしやす場所になるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際にご本人の使い慣れた家具等をお持ちいただき、可能な限り自宅に近い環境づくりに努めている。</p>	<p>ホームに入居する前に利用者の自宅を訪問し、出来るだけ自宅に近い環境を整備するように配慮している。居室には今までの馴染みの家具・調度品を持ち込んで、居心地の良い空間としている。利用者から要望があれば、ベッドでなく畳の上に布団を敷くよう対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室の位置が分かるように、大きく看板や目印をつけている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂

作成日 平成26年9月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録が家族へ公表されておらず、伝わっていない。華族の意見が取り入れられていない。	議事録を家族へ広く公表でき、会議内容が周知できる。全家族の意見が反映できるようになる。	玄関先に議事録を設置し、見やすい環境をつくる。次回開催日を加え、意見箱も設置する。	次回開催の一週間前まで(10月16日まで)
2	10	家族会欠席者への内容報告がない。欠席する家族からの意見、要望が聞けていない。	家族会の内容報告が全家族へできる。欠席する家族からも事前に意見、要望が聞ける。	家族会内容を開催後に全家族へ郵送する。出欠確認の手紙の中に欠席の際意見、要望を記入する欄を設ける。	次回家族会まで(12月)
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。